

第2回専門部会委員意見対応表

資料2-2

No.	委員	意見	対応
専門部会部会（ウェルネス）			
1	大西委員	・資料左側「施策全体の関連図」の「①健康行動促進」に、「身体活動・運動」、「栄養・食生活」、「喫煙」があり、「喫煙」は「働く世代」のみになっているが、受動喫煙への対策は全ての世代に関係があるのではないか。	○ご意見を踏まえ、各世代の表が喫煙にかかるよう、資料左側の「施策全体の関連図」を修正します。
2	佐藤委員	・資料左側「施策全体の関連図」の「①-3高齢者（介護予防、外出の機会など）」と、右側「主な施策」の「①-3高齢者（介護サービス未利用者も含む、フレイル予防の取組を強化）」に、「介護予防」と「フレイル予防」という言葉が使われており、これらは類似の言葉と思われるが、あえて表現を変えているのか。	○「フレイル予防」は「加齢による体や心の動き、社会的なつながりが弱まるのを防ぐこと」で、「介護予防」は、「高齢者が要介護状態となることを防ぐこと」であり、「フレイル予防」は「介護予防」に内包されるものとなります。そのため、資料左側は各世代における取組の概要としてより大きな観点である「介護予防」、資料右側は各世代で施策を進めるに当たっての重点となる観点として「フレイル予防」とそれぞれ使い分けておりますので、表現はこのままとさせていただきます。 ○なお、資料右側①-3において「介護サービス未利用者も含む、フレイル予防」という表現を用いていましたが、フレイルを予防する段階では、まだ介護サービスを利用していないことが多いので「介護サービス未利用者も含む、」は削除します。
3	原田委員	・いくらウォーカブルな環境を整備しても、人が歩かないと健康には繋がらない、ということがこの施策からは欠落している。「アクティブライフ」、「アクティブに生活する」という概念を入れていただいて、そのために歩きやすいまちづくりがあるという二段構えで施策を展開していただきたい。ハードだけではなく、歩きたくなる仕掛けづくりが必要。	○ご意見を踏まえ「施策全体の関連図」に、「①健康行動促進」と「②ウォーカブルシティ」を一体的に取り組む表現（「両面からの対策」）を追記します。
4	椎野委員	・健康行動を無理なく継続できるということが重要。施策を考えるにあたっては日常生活圏への配慮が非常に大事となる。高齢になると生活圏が小さくなっていき、歩いて行ける範囲が非常に大事になってくるので、ウォーカブルシティという発想は健康寿命の延伸には重要となってくる。歩いて行ける範囲に具体的にどのようなものがあるか、そこで健康を促すための行動として何ができるかという、生活圏に配慮した施策の立て方が非常に効果的だと思っている。 ・健康になることが目的というより、地域でその人らしい生活を送ることで健康になっていく、という上手なコーディネートの方ができると良い。	○なお、どのようにして歩かせるかはオレンジの「健康行動促進」の部分、ウォーカブルの環境整備は緑の「ウォーカブルシティ」の部分で整理しており、具体的な事業は今後検討を進めてまいります。 ○また、日常生活圏については②-3「住宅市街地」で整理しており、歩いて行ける範囲に生活利便機能が整っていることや、その人らしい生活を送りながら健康になれるような環境の整備については今後検討を進めてまいります。

No.	委員	意見	対応
5	木村委員	<p>・ウェルネスもユニバーサルも、良心がある人、感度が高い人は取り組むだろうが、そうでない人は変わらないままだと思われる。</p> <p>社会全体として変わるためには、インセンティブが必要ではないか。</p>	<p>○インセンティブ付与の実証等はこれまでも実施しているところであり、ご意見を踏まえ、今後も様々な観点から継続的な行動変容を促すための施策を検討してまいります。</p>
6	大西委員	<p>・「①-1子ども」に「運動量の見える化」とあるが、移動や運動の量、歩数等のデータを取得して評価していくことができると、今後の施策の評価等にも使えるのではないか。近年は様々なデータを収集するようになっているが、全ての世代の移動情報をオープンデータ化していくような取組も必要。</p> <p>・例えば、バリアフリーについても、障がいのある方がどのような経路を利用しているのかわかれば、エレベーターの設置場所はどこがふさわしいのかなど、改善に繋げることができる。</p> <p>・子どもや働く世代、高齢の方も含め、市民がどのような経路でどう移動しているのか。人口密度の高いところだけではなく、例えば、緑地にどのような世代の人が、どの程度移動しているのかなど、センサー技術などを活用し、色々な移動の見える化していくことも重要ではないか。</p>	<p>○子どもの運動量の見える化については、ご意見のとおり検討を進めてまいります。</p> <p>○なお、人流データ等の利活用による効果的なまちづくりという観点は、「都市空間」分野の基本目標19の行政の取り組むことに記載しております。</p>
7	山本（一）委員	<p>・家庭内での子どもの食育の推進について、時間の無い人はどうすれば限られた時間の中で栄養のある食事が用意できるか。食事をすることが大変な家庭に対して、食べ物などの物的補助のほか、作り方も含めて補助ができるような仕組みづくりなどで、誰もが健康な食事ができる、健康を推進できるようにしてほしい。</p>	<p>○ご意見のとおり検討を進めてまいります。</p> <p>○なお、生活困窮世帯の子供に対する食事を含めた支援については、「子ども・若者」分野の基本目標2-2で定めていきます。</p>
8	浅香委員	<p>・札幌市は他の政令市と比較してがんや糖尿病による死亡率が高く、国や地方自治体では健康診断を促進する施策を行っている。</p> <p>・会社勤めの方は会社で健診を受けるが、主婦の受診率がかなり低いと聞いている。これまで行っている早期の診断やがん予防も含めて、定期的な健康診断の促進、一層の強化という項目を付け加えたほうがいいのではないか。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、戦略編の「生活・暮らし」分野の施策に反映してまいります。</p>
9	尚和委員	<p>・「①-3高齢者」について、「市民食育運動の推進（低栄養・フレイル予防）」とあるが、実際には、低栄養、食育だけではなく、認知症予防、転倒予防等の体の運動もあり、さらにこれからますます推進していくために、「多様な主体による健康づくり活動の応援、推進」という文言にしていきたい。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、「市民食育運動」を「多様な主体による健康づくり活動」に表現を修正します。</p>

No.	委員	意見	対応
10	福士委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（一財）札幌市スポーツ協会には、戦前から活動している組織が40団体ほど加盟している。この団体は、ハードも含め、ほとんど自前でやっているのが現状であり、これを広く市民にPRしながら、スムーズに活動できるような施策を「①-4スポーツ振興」の中に組み入れてもらえれば、非常に活躍しやすくなるかと思う。</li> </ul>	<p>○スポーツ協会を通じた競技団体への支援という観点は、「スポーツによる健康で活力のある社会を実現できる仕組みづくり」に含まれており、引き続き支援してまいります。</p>
11	岡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「②-1ウォーカブルシティ」の「地下歩行ネットワーク」の記述だけ「充実検討」となっているが、「充実」と書いてほしい。</li> <li>・西2丁目の地下が南北でつながると回遊動線が実現する。積雪寒冷地ならではの地下の有効活用かつ都心の回遊性の高まりとして非常に重要と思うので、民間にも参画、投資してもらい、事業化につなげてもらえたら良い。</li> </ul>	<p>○ご意見を踏まえ、「充実検討」を「充実」に表現を修正します。</p>
12	岡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「②ウォーカブルシティ」には、「歩きたくなるまち」というキーワードがちりばめられているが、これは、地面が歩きやすいから歩きたくなるわけでも、みどりが豊かだから歩きたくなるわけでもなくて、目的地があって、そこに行く手段としてまちを歩いていくということ。目的地と経路をセットにして考えた「歩きたくなるまちづくりガイドライン」を目指していただきたい。</li> </ul>	<p>○ご意見のとおり検討を進めてまいります。</p>
13	山本（強）委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の計画にある「ウォーカブルシティ」は都市型のイメージだが、札幌のアドバンテージは自然にある。</li> <li>・札幌のウォーカブルは都市に限らず、自然を取り込むと非常に魅力的なものになるのではないかと。公共交通機関を用いて都市と自然環境を結ぶことで、札幌らしい魅力が生まれるのではないかと。</li> </ul>	<p>○山登りやウォーキングイベントなど、札幌の魅力である自然を生かした取り組みを、「生活・暮らし」分野の基本目標4-1で定めていきます。</p>

No.	委員	意見	対応
14	吉岡委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「③人生100年時代の学びと社会参加」において図書館の活用が示されており、ぜひ進めていただきたい。特に、札幌市は各区に地区図書館があり、それらを活用していくというのは大切な観点。本の貸出面では、大通カウンター等があり、利便性が高まっていると評価しているが、各区に20万人前後の住民がいる状況の中で、地区図書館の規模やサービスはもう一頑張りとして認識しており、今後は、本の貸出しだけでなく、学びの場や市民がつながる場として活用していくという方策も進めてほしい。</li> <li>・市民が主役のまちづくりのためには、市民が集う場所が必要。新たに何かを作るよりも、今ある施設を活用することについて検討していくのがよい。</li> </ul>	<p>○ご意見を踏まえ、図書館を、本の貸出だけでなく、市民のつながりや情報との出会いが生まれる学びの場として捉え、③-1、③-2の図書館に関する施策を「地区図書館の役割・機能の充実（本を借りる場所から、さまざまな人や情報が集まる、出会いと成長の新たな学びの空間へ）」に修正します。</p>
15	高野部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「③-1学びの場」に「図書館等の知の拠点」とあるが、インターネットに誰もがアクセスできるようになったため、巨大な知の拠点が自宅でも容易に手に入るようになった。しかし、自宅だとインターネットで遊んでしまう等、肝心の勉強ができないため、賢い中高生は喫茶店などで勉強している。</li> <li>・自宅でも職場・学校でも無い、このような場所をサードプレイスと言うが、物を考えたり、勉強したりできる、何も情報のない空間（無の拠点）や、安いお金で自分の時間を大切にできる公共空間がこれからは求められる。図書館が知の拠点というのは少し古いのではないか。</li> </ul>	
16	定池委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「③-1（仮称）札幌博物館」について、札幌市の歴史や文化が学べる場があるというのはとても良いことだと思っているので、学びの場の充実という意味でも、図書館の充実と併せて、博物館の整備検討をぜひ進めていただきたい。</li> </ul>	○ご意見のとおり検討を進めてまいります。
17	梶井部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェルネスについては健康問題については随分と割かれているが、社会参加や学び合いの場をもう少しという意見がたくさん出ていた。運動も大事なのだが、せっかく札幌市には市民交流プラザ、hitaru等があるのだから、アートによって人が出会うとかそういったことに全然触れられていないというのは残念。そこから学び合い・つながり、社会参加につながるよう、触れていただきたい。</li> </ul>	○ご意見踏まえ、③-2学び合い・つながりに「さまざまな人が文化芸術等の活動を通じて、つながることができる環境の整備」を追記します。

No.	委員	意見	対応
18	高野部会長	<p>・「③-2学び合い・つながり」の中に「ICTを活用した新たなつながり」とあるが、これは良い面ばかりではなく、ネットいじめのようなものなど、悪い側面もある。インターネットという巨大な情報ツールにまだ慣れていない面もあると思うので、そういったことが起きないように人間関係づくりや、ケアについても、ウェルネスという点ではすごく重要ではないか。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、インターネット上でも健全な人間関係が築けるよう③-2学び合い・つながりに「デジタルリテラシーを身につける機会の充実」という表現を追記します。</p>
19	松田委員	<p>・「③-2学び合い・つながり」が少し弱い。学びが社会参加の意欲につながることに付いて、若い世代が学び合うこと、つながることのきっかけ、体験を経て、周囲や社会のこと、まちづくりについて関心を持つという機会が決定的に薄いと感じている。</p> <p>・例えば、①-1では、「学校や公園等」、「学校や家庭等」と書いてるが、この「等」の部分に書き込めるものがあまりに少ないから「等」で丸めているのだと思う。学校だと部活動があるかもしれないし、家庭だと習い事があるかもしれないが、それは経済的なものに左右されてしまうので、子どもや若者の育ちの機会の保障をこの「等」の部分にどれだけ書き込めるか、と 思っている。子どもから大人に育っていくプロセスの中で、学び合い・つながり、あるいは、育ち合いのようなことをどういった場で体験していくのか、その機会をどうやって保障するのかということに踏み込めたらいいなと感じている。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、③-1、③-2の地区図書館の役割・機能に「さまざまな人や情報が集まる」を追記するほか、③-3社会参加に「幅広い世代の市民によるまちづくり」という表現を追記します。</p> <p>○なお、若い世代が地域等、周囲と関わり合って学ぶという観点は「子ども・若者」分野の基本目標3-3に、幅広い世代を超えた交流という観点は「地域」分野の基本目標6-2においても記載しています。</p>
20	佐藤委員	<p>・「③-3社会参加」にある「市民によるまちづくりの充実に向けた支援」は、かなり凝縮していろいろな思いが詰められているのかと思うが、この言葉だと今までと変わらないという気がする。これから肩車型社会になると、たくさんの人たちがまちづくりに興味を持って参加していかないといけない状況なので、「市民による」というところは、単純に市民とするのではなく、広い世代や様々な世代など、もう少し広い枠の市民ということを前面に出して記載していただきたい。</p>	
21	山中委員	<p>・世代ごとに分けて書いているが、「世代間交流」という視点が抜けている。ユニバーサルにも関係するのかもしれないが、学生や若い人が高齢者を支援できるような仕組み作りを入れてほしい。</p>	

No.	委員	意見	対応
22	佐藤委員	・今、町内会ではいろいろな活動をしているが、これからは町内会だけではなく、市民全員がボランティアでみんなの生活を支えていくという気持ちになれるような、ボランティアの育成や活躍の場の促進みたいなことが見えるような整理をしていただきたい。	○ご意見を踏まえ、ボランティアの育成や活躍の場の促進がわかるよう、③-3社会参加に「まちづくり活動に参加しやすい環境の整備、ボランティアの育成」という表現を追記します。
23	高橋委員	・「ウェルネス」については、市民一人一人が主体的に取り組まなければ成功しない。市民の主体的な活動を促し、応援していくような取組が重要。具体的には、行政が人を集め、ボランティア活動やボランティアを育成していくような場、いろいろな方々が集まって意見交換をしたり、知見のある方のお話を聞いて学んだりということが非常に重要になってくるのではないかと。	
24	定池委員	・「③-3社会参加」にボランティアという観点を入れていただきたい。資料左側の「施策の方向性」にボランティアという言葉は出てくるが、「主な施策」でも言葉として出していただきたい。	
25	中田委員	・「③-3社会参加」について、シニア人材を学童保育等に活用できれば、高齢者にやりがいをもって社会貢献してもらおうことができるのではないかと。高齢者は子育ての経験が活かすことができ、他世代交流にもなる。また、高齢者の社会参加は健康寿命の延伸にもつながる。	○ご意見を踏まえ、高齢者の持っている知識を地域に活かすための施策として③-3社会参加に「高齢者の持つノウハウを生かした社会参加の場の創出」を追記します。